

令和 4 年度 厚生労働行政推進調査事業費補助金（慢性の痛み政策研究事業）  
分担研究報告書

就労制限を来たした慢性疼痛患者の就労支援に寄与する多角的包括的研究

研究分担者 高橋 直人 福島県立医科大学医学部疼痛医学講座 教授

研究要旨

慢性疼痛に伴う就労不能や労働生産性低下による多大な社会的コストが大きな問題となっている。復職支援活動の一環として、心理社会的フラッグシステムを活用し、復職支援を行う上でその利点と欠点について考察し、本邦における慢性疼痛患者に対する復職支援用心理社会的フラッグシステムを開発するため、その分担研究者としての役割を担い、その有用性を検証する。

A. 研究目的

慢性疼痛を抱えながら働く労働者は少なくない。2016 年に米国疾病予防管理センターが行った大規模疫学調査によると、全米で就労年代（18-64 歳）の 7.1%（約 1400 万人）が就労制限を来すほどの痛みが 6 ヶ月以上続いていると答えている（Dahlhamer J, 2018）。近年、このような就労年代の慢性痛に起因する社会参加制限や経済損失が大きな社会的問題として注目されるようになり、就労者の慢性痛への対策がより一層求められている。慢性疼痛に伴う就労不能、生産性低下により多大な社会的コストが大きな問題となっており、筋骨格系障害、特に腰痛・頸部痛は多大な影響を与える要因として知られている。この研究報告書の申請者は、慢性疼痛患者の復職支援に精力的に取り組んでおり、三次予防マニュアル作成チームの末席を担っている。本研究の目的は、当講座が星総合病院に設置している慢性疼痛センターにおける復職支援の活動の一環として、心理社会的フラッグシステムを活用し復職支援を行う上で、その利点と欠点について考察し、本邦における有用となる慢性疼痛患者に対する復職支援用心理社会的フラッグシステムを開発することである。

B. 研究方法

回復や職場復帰を妨げる心理社会的障害の問題を分類するために心理社会的フラッグシステムを用いる。フラッグは 3 つの領域、すなわち 1. 本人自体の問題をイエローフラッグ、2. 職場関連の問題をブルーフラッグ、3. 取り巻く社会環境の問題をブラックフラッグに分類する。就労復帰するための障害となっている問題を特定し、就労に向けた計画を立てるための指標となるシステムを開発し、その有用性を検証する。

これまでの松平班では、慢性痛の評価・治療に欠かせない心理社会的要因を簡便に抽出し介入につなげる **Flag system(FS)** と **介入マニュアル** を作成した。本研究班では FS をクラウド上で管理するシステム **YORISOIAI** を完成させて実臨床の現場で使用し、各項目の重要度を再検証しつつ更なるブラッシュアップを図る（初年度）。次いで、介入マニュアルを集学的カンファにて即座に参照できるよう **YORISOIAI** への紐付けを行う（次年度）。痛み専門家不在でも活用可能な簡略版 FS も新たに開発する（最終年度）。

（倫理面への配慮）

調査研究を行うことについては、福島県立医科大学及び星総合病院の倫理委員会の承認を得て行った。

## C. 研究結果

現時点で提示されている心理社会的フラッグシステムを用いて、実際に休業もしくは失職している慢性疼痛患者に使用し、現時点での就労に障害となっている問題点を検討する作業をし、このフラッグシステムの妥当性および有用性を評価し検証した。数例に対して検証したが、慢性疼痛患者やその周りの就労に至るまでの問題点の整理やまとめる作業に関してはある程度有用な手段であることが判明した。現在、企業と相談しながら、クラウド上で管理するシステム YORISOIAIを開発しているところである。

## D. 考察

これまでの検証では、休職あるいは失職した慢性疼痛患者自身やその周辺での社会的な問題点の整理には、我々の開発した復職支援用心理社会的フラッグシステムは一定の有用性があることが判明した。しかし、まだまだ改良の余地があること、また、そのように問題点が整理されたとして、その問題解決にはどのように対峙していくか、すなわち医療従事者や企業あるいは社会全体での取り組みをどのような方向性を持って、アブセンティーズムやプレゼンティーズムなどの問題への解決にどのようにつなげていくかは今後の課題であると考えている。開発したクラウド上で管理するシステム YORISOIAIがある程度普及できるものを作成していく上で、それに対するシステム上の諸問題を一つ一つ丁寧に解決していく必要があると考えている。

## E. 結論

現時点で提示されている心理社会的フラッグシステムを、今後とも試行錯誤の上よりよいクラウド上で普及するシステム開発を目指していく必要がある。

## F. 健康危険情報

総括研究報告書にまとめて記載。

## G. 研究発表

### 1. 論文発表

- 慢性疼痛に対する新たな心理社会的フラッグシステムの開発  
松平浩（東京大学医学部附属病院/22世紀医療センター運動器疼痛メディカルリサーチ&マネジメント講座）、酒井美枝、笠原諭、二瓶健司、近藤真前、荒瀬洋子、谷津田尊寛、本幸枝、谷本真実、高槻梢、杉浦健之、矢吹省司、高橋直人 慢性疼痛(1340-2331), 41(1), P22-34, 2022.
- ICD-11 分類別でみた運動器慢性疼痛に対する集学的入院プログラムの治療効果 高橋直人<sup>1,2</sup>, 高槻梢<sup>1</sup>, 笠原諭<sup>1,2</sup>, 矢吹省司<sup>1,2</sup>. <sup>1</sup>福島県立医科大学医学部疼痛医学講座, <sup>2</sup>星総合病院 慢性疼痛センター PAIN RESEARCH, Vol. 37(3), P141-148, 2022.
- 【慢性疼痛の現状と課題】慢性疼痛と集学的治療（解説）松平浩（東京大学医学部附属病院/22世紀医療センター運動器疼痛メディカルリサーチ&マネジメント講座）、山田恵子、笠原諭、酒井美枝、矢吹省司、高橋直人 麻酔(0021-4892), 72(3), P274-284, 2023
- 集学的治療現状と課題/システム作りと運営・経営 星総合病院慢性疼痛センターでの入院型集学的痛み治療の現状と課題 二瓶健司(星総合病院慢性疼痛センター), 高橋直人, 高槻梢, 本幸枝, 谷本真実, 福地朋子, 荒瀬洋子, 森山由紀, 金澤美香, 谷津田尊寛, 春山祐樹, 岩崎稔, 船尾亜里香, 富永桂子, 笠原諭, 恩田啓, 松平浩, 矢吹省司 Journal of Musculoskeletal

Pain Research(2186-2796) 14(3),  
P189-194, 2022.

## 2. 学会発表

- 1) 慢性疼痛センターにおける集学的痛み治療：腰痛群と非腰痛群での治療効果の相違  
高橋直人<sup>1,2</sup>, 高槻梢<sup>1</sup>, 笠原諭<sup>1,2</sup>, 矢吹省司<sup>1,2,1</sup> 福島県立医科大学医学部疼痛医学講座, <sup>2</sup> 公益財団法人星総合病院慢性疼痛センター第 30 回日本腰痛学会, 06-2, 盛岡, 2022. 10. 21
- 2) 集学的治療のための心理社会的フラッグシステムの開発 松平浩<sup>1,2</sup>, 高橋直人<sup>2,3,1</sup> 東京大学医学部附属病院 22 世紀医療センター, <sup>2</sup> 福島県立医科大学医学部疼痛医学講座, <sup>3</sup> 星総合病院慢性疼痛センター 第 30 回日本腰痛学会, T7-1, 盛岡, 2022. 10. 22
- 3) ICD-11J 分類別にみた運動器慢性疼痛に対する外来での集学的痛み治療の効果  
高橋直人<sup>1,2,3</sup>, 高槻梢<sup>1</sup>, 笠原諭<sup>1,2,4</sup>, 矢吹省司<sup>1,2,3,1</sup> 福島県立医科大学医学部疼痛医学講座, <sup>2</sup> 公益財団法人星総合病院慢性疼痛センター, <sup>3</sup> 福島県立医科大学保健科学部, <sup>4</sup> 東京大学医学部附属病院 麻酔科・痛みセンター 第 15 回日本運動器疼痛学会, 0-03, 栃木県足利市, 2022. 11. 20
- 4) 慢性疼痛に対する新たな心理社会的フラッグシステムの開発 松平浩<sup>1,2</sup>, 笠原諭, 酒井美枝, 井上真輔, 鉄永倫子, 高橋紀代, 高槻梢, 二瓶健司, 矢吹省司, 高橋直人<sup>1</sup> 東京大学医学部附属病院 22 世紀医療センター, <sup>2</sup> 福島県立医科大学医学部疼痛医学講座, <sup>3</sup> 名古屋市立大学病院いたみセンター, <sup>4</sup> 愛知医科大学

病院疼痛緩和外科・いたみセンター, <sup>5</sup> 岡山大学病院運動器疼痛センター, 篤友会千里山病院集学的痛みセンター 第 15 回日本運動器疼痛学会, 1P-07, 栃木県足利市, 2022. 11. 19

- 5) 3つの疼痛病態別にみた運動器慢性疼痛に対する集学的痛み治療 高橋直人<sup>1,2,3</sup>, 高槻梢, 笠原諭<sup>1,3</sup>, 矢吹省司<sup>1,2,1</sup> 福島県立医科大学医学部疼痛医学講座, <sup>2</sup> 福島県立医科大学医学部整形外科学講座, <sup>3</sup> 星総合病院慢性疼痛センター 第 44 回日本疼痛学会, 07-2, 岐阜, 2022. 12. 2

## H. 知的財産権の出願・登録状況 (予定を含む。)

1. 特許取得  
なし
2. 実用新案登録  
なし
3. その他  
特記事項なし